

まるごと泉州 農業最新情報

施設水なす栽培における青枯病の防除（土壌還元消毒）

○青枯病とは

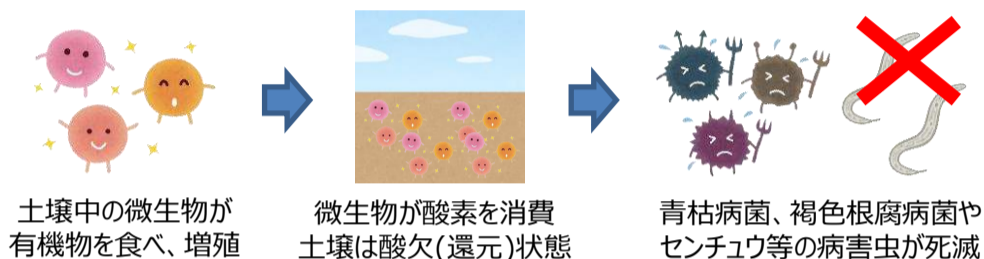


高温時に発生が多発する**土壌伝染性病害**です。発症初期は、一部の葉が青いましおれませんが、その後、株全体がしおれ、枯死します。

病原菌の密度が高いのは**地表から深さ40cmまで**であり、**土壌中で数年間は生存**するため、長期間被害が発生する可能性がある危険な病害の一つです。

○土壌還元消毒とは

有機物を土壌に混和してかん水し、ビニールで土壌表面を被覆して空気の流入を遮断しながら、**高い地温を維持する土壌消毒方法**



○土壌還元消毒における新規資材と他資材との比較

	【新規資材】 ・糖含有珪藻土 ・糖蜜吸着資材	【従来の資材】 米ぬか フスマ	(参考) ダゾメット剤
施用量	1 t	1 t	30kg
費用	約15万円	約5万円	約5万円
消毒範囲	深度約60cm	深度約30cm	深度約30cm
におい	少ない	ドブ臭	—

【新規資材のメリット】

- ・消毒時のにおいが少なく、住宅地が近い大阪のほ場でも使いやすい。
- ・消毒効果が土壌深くまで及ぶ。

【新規資材のデメリット】

- ・費用が高い。

○糖含有珪藻土「かんげん丸®」 イノチオホールディングス株式会社

(今年度、青枯病が発生したほ場（泉佐野市）で試験した資材)



【内容物】コーンスターチ由来の糖類、ろ過助剤

- ・**食品由来の未利用資源を活用**
→ 作業や環境への負担が少ない
- ・**水溶性の糖類を多く含む**
微生物の餌となる糖類が深層に到達する
→ 深層に潜む土壌病害虫にも効果がある
- ・**窒素分をほとんど含まない**
→ 資材による生育への大きな影響はない



【①資材散布手順】

1. ほ場内を片付け、トラクターで耕耘
2. かんげん丸®800kg/10aを均一に散布
3. ほ場全体を耕耘し、かんげん丸®を土壌混和
4. 耕耘後は土壌を鎮圧し、平らにする



【②かん水・被覆手順】

1. 一定間隔でかん水チューブを敷設
2. 土壌表面が湿る程度に予備かん水を実施
3. 被覆資材を広げ、周囲を押さえる
4. **10aあたり100~200tをかん水する**

○結果

・消毒後、地表から40cmの深さまで青枯病病原菌は検出されなかった。
→ **青枯病の防除に高い効果があると考えられる。**

・かん水により、硝酸態窒素量が大きく減少した。
→ **定植前に土壌分析を行い、施肥設計を見直す必要がある。**

○注意点

- ・作土層の深さが**30cm未満**の場合は**費用対効果が低い**。
- ・十分なかん水量(**100~200t/10a**)が必要となる。
- ・かん水後**3日間以上は晴天が続く**日に、消毒を開始する。

新規就農を目指して！ 水なす+きくなアカデミー3期生修了・4期生受講中！

府では、新規就農者の確保を目的に、地域のベテラン農家による栽培技術実習を中心とした研修である、『大阪産（もん）スタートアカデミー』を開講しています。

泉州農の普及課では、「水なす+きくなアカデミー」を実施しており、令和6年8月25日に3期生7名の修了式を行いました。

今年度は4期生2名が新規就農に向けて研修を受講しています。



▲修了式（令和6年8月25日）



▲栽培研修（露地水なす見学会）

